

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272200288		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホームいわき		
所在地	〒036-1325 青森県弘前市大字一町田字村元711番地3		
自己評価作成日	令和5年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階
訪問調査日	令和5年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岩木山を背に広大な自然に囲まれた環境の下、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの心身の状態に合わせたケアを行い、安心できる日常生活を送ることができる様に支援します。又、地域密着型という特性を生かし住み慣れた地域で今迄と変わらずに地域の行事に参加しながら地域住民との交流も大切に、楽しみのある日々を過ごしていただきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

山の麓にグループホームがあり、周りの風景から四季の移ろいなどが感じられる。コロナ禍でも、感染状況に合わせて通院や馴染みの理容院等への同行を家族と連携して行い、利用者の馴染みの場所や人を大切にした支援がなされている。利用者の機能維持に努め、長期間入居している間に職員も同じように年齢を重ね出来ない事が出来たが、利用者と一緒に“老い”を感じることで利用者の気持ちや心情を親身になって考え支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有に努めるため、朝の申し送り時には、職員で唱和し、実践につながる努力をしている。	グループホーム内の各所に理念が掲示され、毎日の朝礼時に唱和し、意識するように努めている。支援で悩んだり迷った時は理念に立ち返りっており、一人ひとりの心に寄り添い支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型サービスに位置付けられている意味を考え、地域との関わりを密に図るよう心がけているが、コロナウイルス予防の観点から控えている。	コロナ禍以降は町内会との交流はお互いに自粛しており、5類に移行したことで、交流再開のタイミングを打ち合わせしている。コロナ以前は地域行事やグループホームの行事に行き来し、関わりを持っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭りなど行事の時は、認知症の理解の為、地域の方に参加を呼びかけていたが、現在はコロナウイルス予防の観点から控えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの5類移行に伴い、今年度より再開となった。	コロナが5類に移行したことで会議を再開して情報交換し、サービスの向上に努めている。避難訓練の際にグループホーム以外にも避難先の確保が必要と考え、地域包括支援センターへ避難場所として相談し了承を得ている。	運営推進会議は法令上定期的に開催することとなり、開催が難しい場合は「書面で情報発信を行う」等の代替の形を模索して行う事が望ましい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当窓口に出向く機会できたが、コロナウイルス感染予防の観点から、電話での対応が多くなっている。	制度等の分からない事などは行政に電話相談し解決している。また、他市町村の利用者の受け入れ等の方法についても問い合わせする事もあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員の意識向上、周知に努めている。正しく理解できるように研修に取り入れ、報告書の提出を行っている。	3カ月に1回身体拘束についての勉強会を行っている。内部で定期的に会議をし、みんなで身体拘束をしないケアについて学んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束廃止委員会」の際のには、高齢者虐待防止法などについて学び、施設内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルス感染予防の観点から、外部研修への参加が難しいときは内部研修で学び、関係者と話し合い、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学に来ていただき、管理者より説明を行っている。ご家族や、入居者様の疑問点に対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払日には、なるべく来設して頂き、ご家族様の要望や意見を尋ねるようにし、話しやすい雰囲気作りを心がけている。	支払いの機会を利用し家族へ普段の様子を伝え意見交換が行われている。家族から面会の希望があり、スクリーンを設置し、個室内で感染対策を講じて家族との面会が出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルス予防の観点から、全員参加での会議は隔月での開催としているが、会議前には全職員に議題の提供や、意見を求めている。	経営者や管理者を交えた会議を隔月で開催し、職員との意見交換を行う機会を設けている。管理者は日常的に職員の話を聞き、経営者へ意見を伝え設備整備を行う等のサービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、月に数回訪問し、出勤職員と会話をもち、コミュニケーションを図るとともに、意見を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より、全面的に研修への参加費用の提供が行われている。コロナウイルス感染予防の観点から、対面での研修への参加が難しいときはパソコンを使用し、参加していきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス予防の観点から、機会は少ないが、パソコン使用し参加できるよう進めて行きたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本調査をもとにご本人様との面談を行い、不安に思うことなどの把握に努めています。又、それらをサービス計画に反映させるよう考慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報をもとに、ご家族様には見学に来ていただき、現状の把握と想いを傾聴しながら関係作りや信頼に結び付けることができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナウイルス予防の観点から施設内での面会は行われていないが、受診支援希望されるご家族様には、その要望に答えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に台所仕事や、軽作業を行うなど残存機能の維持、及び信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員は、本人と家族の絆を大切にするために毎月本人の様子を文章にまとめてご家族様に渡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご本人様が通院していた病院は、なるべく入居後もそのまま受診できるように支援している。	かかりつけ医の受診やなじみの理容店や美容院との関係性が途切れないように、入居後も家族や職員と一緒に行く事が出来ており、訪問先では懐かしい方々との交流が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の軽作業を一緒に行い、気の合う入居者様同士、余暇活動の時間を利用して、交流が深まるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も様子を確認したり、入所先の施設を探す手伝いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活状況、生活歴を参考にご本人様及びご家族様からの聞き取りを行い、相談しながら生活に反映させている。	生立ちや生活歴から本人のの人となり把握し、日々の生活の中で職員は入居者の思いや意向を汲み取り支援に繋げている。利用者の思いを共有する為、業務日誌やユニット会議で話し合われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本情報や、ご本人様、ご家族様との面談において聞き取りを行い、ご本人様の思いの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態を確認し、介護日誌への記入を行いながら、各スタッフが情報共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議では、職員からの意見を求め、介護計画作成に生かしている。作成されたサービス計画は全スタッフで確認を行っている。	業務日誌を活用し、利用者の様子をユニット会議の中でモニタリングし、プランの作成をされている。更新時には仮プランをを基に家族の意見を伺いプランに反映させている。状態が変わった時は随時サービスの見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の取り組みや結果を介護日誌に記入し、変化や変更があった時には申し送り簿や業務日誌に記入するなど、情報共有につとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意見を尊重しながら、ニーズに対応できるよう工夫している。なじみの美容院へ家族と共に外出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルス予防の観点から、行われていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望のもと、かかりつけ医への受診を継続すると共に、報告、連絡、相談を大切に信頼関係の構築に努めている。又、急変時の受診体制も整っている。	入居後も利用者が安心できる様にかかりつけ医の受診を継続されている。協力医とも連携がとれており、いつでも相談できる体制になっている。かかりつけ医の受診が困難になった際は協力医に変更が出来る体制がとられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員一人ひとりが入居者の状態把握に努め、細かな異変を見逃さないように観察、情報共有に努めている。かかりつけ医への相談をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には情報の提供を行っている。又、地域連携室やソーシャルワーカーとの情報交換を密に行い、それをご家族様との今後の相談に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、事業所の方針を明確に提示しており、機能低下や状態の悪化が確認された場合には、ご家族様と相談し、他施設への待機者登録をする、などの対応を行っている。	グループホーム内の段差等により移動が難しく、生活が困難になった時は、対応出来る事業所が見つかるまで支援することを入居契約時に利用者、家族に十分に説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含め、急変時や事故の発生に備えた対応も、全職員が把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含め、年2回以上の避難訓練を実施し、全職員が迅速に対応できるように日々話をしている。非常食や懐中電灯、灯油ストーブ、ラジオの備えも把握している。非常食は、約3日分を備えている。	年2回訓練を行っており、非常食等の準備もされている。コロナの影響でグループホームだけの訓練であったが、今後は地域包括支援センターとも連携し、改めて体制作りを行う予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際には、声掛け、ノックを行い、プライバシーに配慮している。トイレ誘導を行っている入居者様には、声のトーンを下げて、視線を合わせながら、声掛けを行っている。	プライバシーについて内部研修を行い、新人にも入社時に研修が行われている。方言により伝わり方が違うので、利用者に合わせて声がけしている。	プライバシーに関わる内容を利用者に遠方から大声で話している場面も時々見られているが、課題は把握しているとの事なのであらためて理念に沿い改善に努めていく事に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類の準備を1人で行えない方には、訪室し必要な物品を声掛け、提示し、ゆっくりと準備して頂くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時の衣類の準備は、入居者様一人ひとりに合わせて、前日に準備する方や当日に準備する方など、入居者様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診時や、誕生会など、入居者様と一緒に季節に合わせたコーディネートを考え、アドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえを一緒に行ったり、食器拭きは毎回交代で入居者様をお願いしている。又、苦手な食材や禁止食品に関しては、情報共有に努め、提供している。	季節の食材の下ごしらえや茶碗拭き等、利用者が出来ることは一緒になり行っており、残存機能の維持に努め、楽しく食事が出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態、体重の変化の把握に努め、提供する食事量を工夫したり、摂取量の変化がないか観察している。食事量の減少等続く場合には、主治医への情報提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせた声掛けを行っている。自力で行える人、誘導声掛けで行える人、それぞれに合わせた支援を行っている。できない部分は、一部介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のうったえの無い方は、時間誘導を行い、夜間も排泄のパターンを確認しながら、オムツの使用にすることなくトイレに誘導を行っている。	排泄表を使用し、利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促している。予防的にリハビリパンツや尿取りパットを使用している方はいるが、定時の声がけや誘導にてトイレでの排泄は出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排便チェック表活用と職員の申し送りにより、各々に合わせた下剤服用の対応。水分補給、軽体操の参加を促している。主治医への相談を行い、指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回、ユニットごとの入浴だが、受診日と重なった時などは、ユニットを超えての入浴としたり、気の合う入居者様同士で入浴するなどの対応をしている。	ユニット毎に入浴日が週2回と決まっており、定期的な入浴の機会は確保されている。入浴日以外でも通院等が重なり必要な場合はユニットを越えて入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、状態を把握し、午睡の時間や入眠時の時刻の工夫、声かけによって夜間の良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の服薬状況は、基本台帳に1年分をとじ込みしており、職員が常に閲覧できるようにしている。受診時に変更の指示があった際には、各受診記録に記入するとともに、申し送り帳に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から本人の趣味や能力を生かせるように日常生活に工夫をしている。和裁をしていた方には、雑巾を縫ったり、ボタン付けなどをしていただいている。ドライブに行ったり、食べたいものを購入したりなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルス予防の観点から、大勢が集まる場所へは自粛をお願いしている現状にあるが、ドライブに行ったり、ご家族様とご自宅で食事をするなど家族と相談しながら支援している。	コロナ禍だった為、大人数での外出は控えていたが、本人の希望があれば通院時等に自宅へ寄ったり、出来る範囲で外出できるように支援されている。今後は感染症の流行状況を見ながら外での企画を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の状態や、ご家族様の希望により所持している方もいますが、コロナウイルス予防の観点から、ご本人様が直接買い物に出かけるとまでは至っていません。お預かりしているお小遣いからの購入支援となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外線での電話連絡には取次ぎをおこなっている。当施設からご家族様に連絡をするときにはご本人様と会話してもらえるよう声掛けを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余暇活動で作成した絵や作品(折り紙、塗り絵、下がりもの)を各々の氏名を記入していただき、サロンや廊下、居室に展示をして足を留めてもらえるよう工夫している。テレビやビデオは、各サロンに配置し、ユニットを超えて見ることが出来るように声かけをおこなっています。	ホールは装飾を行い、季節を感じられる工夫がなされている。季節の花を活けたり、リビングから草花が見えるように植えこんでいる。利用者がリビングからトイレや居室へ移動する際に利用者の見え方に合わせた照明の明るさに気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンのソファは、各々が好きな位置、時間に座り休んだり、会話をしたりと過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に自宅で使用していた家具や備品を持参されたり、ご家族様の位牌を毎日拝んでる方もいます。ご家族の写真や手紙は、居室内に飾ったり、本人の目の届く位置にしています。	自宅で使った馴染みの物を持参しており、位牌を置いたり、家族の手紙や写真を飾り家族とのつながりを感じられる居室になっている。編み物等の趣味を居室で行い、自分の時間を楽しめるような環境設定を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室入り口には氏名を掲示し、トイレには表示をつけ、混乱しないよう目印をつけています。施設内には、手すりの設置を行い手引き歩行の緩和や、歩行時の安心につなげています。		